



住民パワーで1万枚を作る
在宅介護の救世主「介護タオル」

在宅介護を応援しようと、地区社会福祉協議会が呼びかけたボランティアグループが「介護タオル」を作っている。高齢者のサロンの参加者などが公民館に集まり、古布をひとつひとつ丁寧にA4サイズに切って束ねる。出来上がったものは、認知症在宅介護者の会や高齢者施設等に送る。活動は、高齢者の閉じこもり防止にもつながっている。

- 内 容 介護タオルの作成
 - ・ 古布の裁断、タオルづくり
 - ・ 在宅介護者等への送付
- 実 施 日 随時
- 場 所 五月が丘公民館、集会所
- 参 加 者 約30人
- 開始時期 平成26年6月
- 実施主体 五月が丘地区社会福祉協議会



取組のステップ



古布が介護の救世主に

地区社会福祉協議会のメンバーがボランティア研修に参加した際、在宅で介護をしている人が使い捨てのタオルを必要としていることを知った。どこの家にもあるものをちょっと加工することで役立つのであればと、介護用の使い捨てタオルを作ることになった。

ボランティアで介護タオルづくり

早速、社協だより等を通じて、使い古しの綿100%の布を募ったところ、たくさん古布が集まった。タオルやTシャツ、パジャマなどいろいろだ。

古布は、使いやすいように、A4サイズにカットして束ねる。作業は、高齢者のサロンの参加者や地域の住民約30人がボランティアで行っている。

そして、できたものを認知症在宅介護者の会や地域の特別養護老人ホーム、デイサービスセンターなどに送る。肌に優しくて気持ちいいと介護している人も介護されている人にも好評だ。

市外からも多くの古布が届く 作った介護タオルは1万枚を超える

平成26年末までに出来上がったタオルは約4000枚。その後、新聞で取り上げられたことをきっかけに、岩国市や福山市など遠方からも古布が届き、ボランティアの協力で7,500枚を作った。



タオルづくりは、触れあいづくり

作業は、公民館や集会所に集まり、みんなで話をしながら進めている。高齢者の閉じこもり予防にも効果を上げている。

工夫していること等



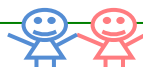
作業は集まりやすい場所で

地域の人に参加しやすいよう、作業は公民館で行っている。

課題・今後の展開

- ・ 継続して古布の提供を受けることができる仕組みをつくる。

みんなの声



〈住民〉

- ・ こういう機会に外に出かけて、地域の人とつながりができるのはうれしい。

〈主催者〉

- ・ 五月が丘団地で、在宅介護をしている人に広めていきたい。
- ・ 皆さんに喜んでもらいうれしい。これからも、細く、長く活動を続けていきたい。